

## 『ものづくり産業と北海道』

国立大学法人北海道大学 名誉教授

(北海道生産性本部:2018年5月副会長就任)

岸浪 建史(きしなみ・たけし)氏



**略歴:**1944年生まれ。66年北海道大学工学部卒業、71年北海道大学大学院工学研究科博士課程修了(工学博士)、71年北海道大学工学部講師、72年同工学部助教授、87年同工学部教授、2003年北海道大学大学院工学研究科長・工学部長、04年北海道大学理事・副学長、07年国立高等専門学校機構釧路高専校長、09年国立高等専門学校機構理事、12年室蘭工業大学監事、現在に至る。

私の専門は機械工業における生産システムのデジタル化である。その目的は生産性の向上に加え、ものづくりの非属人化を通じた設計・解析・加工の一貫性の確保と製品の品質化である。北海道は第二次産業の比率が低く、部品加工を担う中小企業が多いことから一部の例外を除いて企業との共同研究は関東、中部に本社を置く企業との間で行ってきた。その間なぜ北海道にもものづくり産業が発展しないのかは大きな疑問であった。昨年、たまたま書店でジェイン・ジェイコブス著書「発展する地域 衰退する地域:ちくま学芸文庫」を偶然みつけ、読み始めると大変興味深いだけでなく北海道のものづくり産業発展への大きなヒントを与えていると感じたので、いくつかの事例を紹介したい。

本書の第3章:都市地域(Cities' Own Regions)では、「日本の中央部では、多くの都市が都市地域を生み出すだけでなく、それらが重なり合い一体となっている。しかし札幌は都市地域を生まなかった。」と述べている。

また13章:苦境(Predicament)では「日本のように繁栄している国でさえ、諸地域間の不平等という問題を抱えている。中央日本には、創造的な輸入置換都市と多様化した都市地域が豊富に存在する。しかし、日本列島の北部および南部では事情は異なる。これらの地域は地理的にはこの国の大きな部分を占め多くの人口を有し、古くからある大小の村や町、そしていくつかの都市が点在する。こうした周辺都市は中央日本の都市とは

異なっている。これらの都市は中央日本からくる輸入品の置換を得意としていない。輸入置換都市でないため重要な都市地域を生み出さない。したがってこうした周辺地域は他地域のためだけでなく地元の生産者と住民のために豊かで多様な生産することがない。」と記述されている。

ここで「輸入置換(import-replacing)」および「都市地域(Cities' Own Regions)」についてジェイン・ジェイコブスは厳密には定義していないが、本書を通読すれば以下のように理解できる。

**輸入置換:**都市の域外から輸入しているものを域内で生産することにより既存の輸入を減少させ、その分を他の財、サービスの輸入に充てるだけでなく、輸入置換品を輸出することにより都市の経済を発展させる機能。

**都市地域:**都市そのものではないが、都市の機能を発展させる農業的・工業的・商業的周辺地域。

ジェイコブスがどのようにして日本の現状を把握分析したかは明確ではないが、国を単位として経済を考えるのではなく、都市における輸入置換を通して地域経済の発展を考える視点、すなわち発展とは日常の経済活動において即応的な改善(improvisation)を絶えず取り入れ相違を加えて改良する過程であって、このような状況を作り出せるのは相互に流動的な取引を可能とする都市だけとするジェイコブスの主張は北海道経済の振興を考えるうえで大変参考になる。